カッパ 6H, 7, 8D, 8, 9L 型の性能

広 沢 曄 夫

1960 年 11 月以降に飛しょう実験の行なわれたカッ パ 6 H, 7, 8 D, 8, 9 L 型の性能計算の結果をまとめ て報告する.計算方法,計算に使用したロケットの空気 抵抗係数などは従来のものと同様である.

1. カッパ 6日型

6H 型は6型のブースタを改良,性能向上したもので その諸元は

		booster stage	main rocket
全	長	6,867 mm	$3,507\mathrm{mm}$
外	径	245 mm	150 mm
重	量	330.2 kg	88.7 kg
燃焼	秒時	9.25 sec	5.6 sec
搭載重量			$11.47 \mathrm{kg}$

である.ブースタ切断およびメインロケット点火は計算の結果,発射後それぞれ 11 sec, 17 sec と決定された. 第1図,第2図に計算結果を示す.

2. カッパ 7 型

7型は 420 型エンジンを使用した 1 段式ロケットであ る.

諸元

全	長	6,714 mm
外	径	420 mm
重	量	1,161 kg
燃焼	秒時	15.1 sec
搭載	重量	12.5 kg

第3図,第4図に計算結果を示す.

3. カッパ 8D 型

8D 型は 420 型エンジンの上に 245 型のダミーロケットをのせたもので型は 2 段式であるが,飛しょう時において切りはなしは行なわず 8 型の予備実験として行なわれたものである.

諸 元

		booster stage	245 ダミー
全	長	10, 119 mm	4,4 00 mm
外	径	420 mm	$245\mathrm{mm}$
重	量	1,471.4 kg	291.6 kg
燃焼	秒時	15.1 sec	
搭載	重量	4.1 kg	13.3 kg

第5図,第6図に計算結果を示す.

4. カッパ8型

8型は420型ブースタと245型メインロケットを組み 合わせた2段式ロケットで1960年7月より1961年7 月の1年間に合計7機の実験が行なわれ,それぞれの号 機によって諸元も異なり,したがって性能にも幅がある のでここではその1例を示す.

諸元 (5,6号機)

		booster stage	main rocket
全	長	10,950 mm	5, 141 mm
外	径	420 mm	$245\mathrm{mm}$
重	量	1,529.4 kg	333.7 kg
燃焼秒時		15.1 sec	9.25 sec
搭載重量		33.5 kg	30.7 kg

 第7,8,9図に計算結果を示す.ブースタ切断および メインロケットの点火は、計算の結果次のように決定された。

420 B 切断	発射後	17 sec
245 メインロケット点火	"	30 sec

第 10,11 図は8型の計器搭載重量の変化,発射角度の 変化に対する到達高度を表わしたものである.

5. カッパ 9 L型

9L 型は 420 型エンジンを第1ブースタに,245型エ ンジンを第2ブースタに,メインロケットには150型を 用いた3段式ロケットである.

諸 元

		lst. stage	2nd. stage	3 rd. stage
全	長	12,502 mm	6,866 mm	$3,420\mathrm{mm}$
外	径	420 mm	$245\mathrm{mm}$	150 mm
重	量	1,539.9 kg	369.9 kg	93.0 kg
燃焼	秒時	15.1 sec	9.25 sec	5.6 sec
搭載重量			3.6 kg	7.7 kg

ブースタの切断および点火,メインロケットの点火は 次の通りである.

420 B (第1	ブースタ)切	断	発射後	17.0 sec
245日(第2	ブースタ) 点	火	"	30.0″
245B (〃)切	断	"	40.5″
150 M(メイ:	ンロケット)点	火	"	44.0 "

第 12, 13, 14 図に計算結果を示す.第 15, 16 図は 搭載計器重量の変化,発射角度の変化に対する到達高度 である.

以上カッパ6H型,7型,8型,9L型の性能計算結 果の大略を記述したが詳細にわたっての各ロケットのデ ータ,計算結果は糸川研究室に保存してあるので,必要 に応じて問合せがあればお知らせする.

(1961 年7月 31 日受理)





第 13 巻 第 10 号

